

第3回 府立北摂つばさ高等学校 学校運営協議会 会議録

日 程：令和5年2月8日（水）15：40～

場 所：本校会議室

委員出席者（五十音順、敬称略）

足立委員、長田委員、塩見委員、田中委員、中山委員、春山委員

事務局出席者

田中（校長）、坪内（教頭）、高本（事務長）、佐藤（首席）、美濃（首席）、山下、渡、松原、鈴木、國府、奥、日高

<報告事項>

校長挨拶：・年末あたりから教員を含めコロナ感染が起きていたが、各教科で工面しながら対応しており、今後とも共存しながら新型コロナ感染対策を継続し安全対策を行っていきます。

・次年度の計画に対して忌憚のないご意見をお願いします。

○委員 ●事務局

<意見・感想>

1. 各分掌・学年の総括について

- 学校が過渡期にあるとはどういう状況にあるということか。
- 専門コースとなって3年以上経過、さまざまに変化をしてきたなかで、ある程度成果も出てきた後の次の段階を考えていく必要があるのではないかと考えます。また、これまで長らく活躍してきた担当教諭が異動の後、これまでどおりの実行ができなくなってくるなど、そういう意味でも過渡期と言っています。
- 心身の強化、遅刻指導、家庭も含めた生活指導など多岐にわたるご苦勞のなか、成功体験をいかしつつ、益々発展していかれることを望む。
- 部活動の活性化のところで、当たり前の時代から維持が難しい状況下、今後、地域移行が中学校は計画されているが、現状の高校ではどのようなになっているか。
また、高校卒業までの進路変更について、中学校時代から高校生活のイメージを持たせて高校入学されることも大切かと思った。そこで1，2年生における進路変更はどのような状況なのか教えてほしい。
- 自転車で15分以内の部活ペアリング相手校が教育庁より指名されているのですが、本校についてはペアリング相手校がありませんので単独での部活動ということになります。
もしペアリングになりますと、週末での両校の活動に何らかの制限はあります。
本校部活動の取り巻く環境に著しい変化はありませんが、その他生徒部で行っています加入率を上げる工夫を今後も行っていきたいと考えます。
また、部活動の地域移行については、現状では中学校までが動いているようで、その中学のモデル校の結果をみてから、今後は高校にも地域移行が行われるのではないかと考えられます。
また進路変更については、15期生（2年）は入学時240名に対し令和3年度末10名異動し、令和4年度中すでに8名異動しています。16期生（1年）は入学時240名に対し、

令和4年度中すでに13名が異動しており、今後も増えていくのではないかと思います。

- 進路変更の行先とはどんなところにいかれるのか。
 - 年度途中の異動では、私学の単位制高校に行くことができるので非常に増えてきています。
 - 遅刻対策では、社会人でも遅刻が多くなっており不登校的になって居場所がなくなることが問題となっているが、当校での進学講習など先生とのコミュニケーションが活発になれば、学校との信頼関係もうまれ自然と学校へ行きたい気持ちに繋がれば良いし、学校内で自分の居場所をみつけれれば遅刻もなくなるのではないかと感じました。
 - 進学講習プログラムは全学年において火曜日放課後に構成されているのか。
 - 放課後7、8時限の設定で各学年において、英数国の科目で展開しております。
希望者において、凡そひとクラス程度の集まりとなりますが、その後減少していくことがあります。基礎学力というより大学進学のための講習会となります。
この進学講習の裏では、基礎学力の底上げに対応した寺子屋を、何度か実施したことはありました。各先生方もいろいろと負担ではありましたが、有志ということでこれらの希望者にも対応をしておりました。
 - 人間力というのも特化した能力だけがあるのでは問題もあり、一般的な基礎学力も少しはないとやはりよろしくないと思う。それには、学習の習慣化が大事かと。繰り返す力がないと何にしても学力にならない。この学習の習慣化をプログラムにいれないといけないと思う。また、遅刻生徒に関しては、スクールカウンセラー等を活用して、遅刻改善を専門家に相談しないとやはり改善は難しいのではないかと考える。
2. ○学校教育自己診断アンケートの総括について
- 学校評価（案）について
 - 令和5年度中期的目標（案）について
-
- コミュニケーション能力向上のための特色ある授業等は何かしているのか。
 - 特に今年度はしていないが、普段の授業や先生との対話、振る舞いだとか、大人との接触等、様々な環境で変化していければ良いのではないかと考えています。特にセミナー等の取組とかはやっておりますが、教育センターの取り組み等も参考にしていきたいと思います。人間関係形成能力はアナログであっても、デジタルであってもコミュニケーションとしては同じことでバランスが大切です。人と人との会話を通して、相手の気持ちに寄り添う心を大切にしなければならないと考えます。
 - 学校経営計画の学校自己診断について、課題における取組みをどうしていかれるのか
次年度以降、期待したい。
 - 自己診断アンケートから、人間力の形成については中学生にも同じことがいえるのだが、当校では学校への帰属性がとても高いという結果からすれば、しっかりできておられるなど、きっと当校の学習に関わっていけば人間力につながると思われるので、中学校においてもそこを見習っていきたい。
 - PTAとして学校と関わった点では、働き方改革については社会的問題で個人的には意見はあるが、人間相手の職業では相手がものではないということや時間できっちり切るわけにいかない等、現状における先生にも同じことがいえるのではないかし、いろんなSNS等のツールにおいて、生徒や保護者から休む間もなく対応を迫られているのではないかと感じる。また、デジタルは、好きなことを好きな時間で自由にやれるし、個人情報等のセキュ

リティの問題もあり様々なことがあるので、先生方も勉強していただけたらと思う。

- 部活動について、クラブに入らない理由をアンケートされていないのではないかな。

部活動を立ち上げることを今の高校生は知らないのではないかな、例えば同好会から部にできる構築の方法等、自分たちで独自で部をつくることを知らないのではないかなあと思う。自分たちで新しい部活動が創出できれば、もっと部への関心、加入率も向上するのではないかなと考える。

- 学校経営計画の目標設定も昨年よりもすごく分かりやすくてよいと思う。

コミュニケーション能力は、幼児からいかなる世代でも求められてきている。

総合的な人間力というのは、そもそもベースでなくてはならないと思う。

スクールポリシーに謳われているように、相手への思いやる心を持った総合的な人間力というのが、この北摂つばさ高校の中心的、根幹をなす言葉として明確に表れており、これからも築いて行かれ実現できるようにしてもらえたらと思います。

- 5. その他、校長が必要と認める事項 特になし

- 6. 学校教育診断アンケートに係る保護者からの意見 特になし

以上